

農作物の災害予防対策

	強 風	大雨・長雨	高温・乾燥	低温・積雪
(1) 水 稲	<ol style="list-style-type: none"> 倒伏防止のため、適正な施肥に努める。 倒伏と葉ずれ・穂ずれ軽減のため、深水管理とする。 倒伏した水田では排水に努める。 風にもまれて生じた傷から病害が侵入しやすいので、適切な病害防除を徹底する。 低気圧の通過と満潮が重なり、潮位の上昇によって海水が流入する恐れのある水田では樋門等の管理に注意する。 	<ol style="list-style-type: none"> 用排水施設、畦畔、堤等の決壊危険箇所の補強をする。 浸水した水田では排水に努めるとともに、適切な病害防除を徹底する。 倒伏したほ場では、穂発芽が発生しやすいので排水に努め、刈取り期に近いものは早めに収穫する。 	<ol style="list-style-type: none"> 用水が不足しやすいほ場では、用水路の補修や、畦畔の漏水防止に努め、可能であればポンプ等による計画的なかんがいを行う。 生育ステージに応じて、用水が必要な優先順位を判断し、計画的な配水及び節水栽培に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> 晩霜の恐れがあるときは、夜間に育苗トンネルを密閉しておく。 用水の水温が低い地域では、ほ場内に迂回路や保温チューブを設置することにより、かんがい水の水温上昇に努める。
(2) 麦	<ol style="list-style-type: none"> 倒伏防止のため、適期に適正量の追肥施用を徹底する。 	<ol style="list-style-type: none"> 排水路を整備する。 営農排水を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 暖冬によって過繁茂傾向となる場合は、病害の発生・蔓延に注意し、必要に応じて防除を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 地域における適期播種に努める。 排水溝の通水を手直しし、融雪時の排水を促進する。 年内の生育が過剰な場合は踏圧して徒長を防ぐ。
(3) 大 豆	<ol style="list-style-type: none"> 倒伏防止のため、十分培土高を確保する。 	<ol style="list-style-type: none"> 排水路を整備する。 営農排水を実施する。 時播種前のほ場では、播種一連の作業をほ場条件が回復するまで延期する。 中耕培土を十分に行い、ほ場内の通水路を確保するとともに、排水路と連結する。 	<ol style="list-style-type: none"> 中耕培土を十分に行い、ほ場内の通水路を確保する。 開花期以降、晴天が7日以上続く場合は、葉に水分ストレス症状が発生する前に、畦畝間かん水を実施する。 	
	強 風	大雨・長雨	高温・乾燥	低温・積雪

(4) 露地野菜・花き	1. 防風垣・防風ネットを設置する。 2. 倒伏防止のため、株元へ土寄せする。 3. 作物の支柱を補強する。フラワーネット等を緩みのないようしっかり張る。 4. 砂丘地では飛砂防止の散水を行う。 5. トンネル栽培の被覆はバンドを締め直すとともに被覆の裾を土袋等でしっかり押さえる。 6. 風でもまれた作物は、病害防除を徹底する。	1. ほ場の周囲に明渠を設置してほ場外に排水する排水溝に接続するとともに、スムーズに排水するよう土砂やゴミを除去する。 2. 土壌浸透による排水を促すため、耕盤破砕の実施に努める。 3. 地下水位が高く滞水しやすいほ場は高畝栽培とする。 4. 浸冠水の恐れのある場合はポンプで強制排水する。 5. 降雨後は病害防除を徹底する。	1. 水源を確保しかん水施設の設置に努め、水分不足が生じる前にかん水をする。 2. 土壌乾燥防止のため敷わら、ポリフィルム等によるマルチ栽培を行う。 3. 有機物施用により保水力の確保と根群の発達を図る。 4. 生育初期より適切なかん水管理に努め、根群を発達させる。 5. 害虫が発生しやすいので害虫防除を徹底する。	1. 保温効果の高い資材で被覆する。 2. 低温・晩霜の恐れがなくなってから植え付ける。 3. 花木は雪で技折れしないように支柱を立てて結束する。 4. 積雪が多く寒い地域では耐雪性、耐寒性の強い品種を作付ける。 5. 融雪水が速やかに排水するよう事前に排水対策を実施する。
(5) 施設野菜・花き	1. 防風ネット・防風垣を設置する。 2. パイプハウスはタイバー等で補強し、地際が腐食したアーチパイプには補強パイプを設置する。 3. 被覆は密閉し作物を保護し、ばたつかないようバンドを締め直す。 4. 施設内に風が吹き込まないように、適宜、被覆等の破損箇所は修繕する。	1. 施設内に雨水が流入しないよう、周囲に排水溝を整備するとともに、止水シートを設置する。 2. 浸冠水の恐れのある場合はポンプで強制排水する。	1. 遮光ネットを展張し、施設内の昇温抑制に努める。 2. 土壌乾燥防止のため、敷わら、ポリフィルム等によるマルチ栽培を行う。 3. 有機物施用により保水力の確保と根群の発達を図る。 4. 生育初期より適切なかん水管理に努め、根群を発達させる。 5. 害虫が発生しやすいので害虫防除を徹底する。	1. パイプハウスを建設する場合は、設置間隔を十分に確保する。 2. 降雪前にパイプハウスのタイバーや突き上げ棒による補強を行う。 3. 雪が滑落しにくい古い被覆は計画的に張り替える。 4. 遮光ネットは降雪期までに撤去する。 5. 降雪中は除雪や融雪に努める。 6. 作付けしていないパイプハウスは降雪前に被覆を除去する。

	強 風	大雨・長雨	高温・乾燥	低温・積雪
(6) 果 樹	<ol style="list-style-type: none"> 1. 防風垣・防風ネットを設置する。 2. 果樹棚が波打たないように、中柱補強、棚線をナシの主幹部等に固定し、棚面の上下動を抑制する。 3. 棚仕立ての果樹は枝を棚面に結束する。幼木は支柱の立て直しや結束のやり直しをする。 4. ハウスのビニール降ろし、押えバンドの締め直しをする。強風でハウスが倒壊する恐れのある場合は作物を犠牲にしてビニールを切り裂く。 5. 病害に対する防除を徹底する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 傾斜地では土砂の崩壊を防ぐため集排水溝を整備しておく。 2. 水田転換園では畦立てとし、明きよ等により排水対策を行う。 3. 浸水した水田転換園では停滞水が生じないように排水に努める。 4. 病害虫の防除を徹底する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. かん水施設の設置に努める。 2. 土壌改良を徹底し保水力を高める。 3. 草生栽培園では草刈りを徹底し、敷草を励行する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 季節風を避けるように防風垣・防風ネットを整備する。 2. 棚を中柱（突き上げ柱等）で補強をする。 3. 積雪前に粗せん定をする。 4. 幼木は支柱を立て結束しておく。 5. 雪踏み、除雪をして、枝の裂け、折れを防ぐ。 6. ハウスの雪害に対して補強と除雪に努める。 7. 網掛け施設については網の収納を済ませ、網収納部の結束等を確認する。
(7) 飼 料 作 物	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倒伏のおそれのあるものは、刈り取れる状態であれば早めに刈り取り、サイレージ調整するか青刈給与する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほ場は排水溝を整備し、水が停滞しないように排水口へ確実に連結する。 2. 急傾斜地では土壌の浸食防止として特に根張りのよいほふく型、中間型の牧草類を選ぶ。 3. 草地を更新する際にはところどころ帯状にグリーンベルトとして既存の牧草を残すようにする。 4. 転換畑で湿害を受けやすいほ場では、耐湿性の強い品種を選ぶ。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. かん水施設の設置や整備をする。 2. 耐干性の強い種類や品種の作付けを行う。 3. は種後の鎮圧作業を励行する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 牧草類などでは、特に播種後の鎮圧作業を励行する。 2. 窒素に偏重しないようにして、肥培管理を十分に行う。 3. 雪が多く寒い地域では耐寒雪性の種類や品種の作付けを行う。 4. 停滞水の排水に努める。

	強 風	大雨・長雨	高温・乾燥	低温・積雪
(8) 葉 た ば こ	<ol style="list-style-type: none"> ほ場周囲、畝間に前作麦(ライ麦)の作付を行う。 ほ場の周囲に防風垣、防風ネットを設置する。 植付から生育期までは被覆栽培をする。 被覆栽培は資材のすそに十分土を寄せる。 	<ol style="list-style-type: none"> 排水不良地での作付を避ける。 排水溝を整備しておく。 水田では高畝栽培(30cm)とし、畝間に滞水しないよう、必ず排水溝と接続し、速やかに排水する。 被覆栽培をする。 	<ol style="list-style-type: none"> 水源を確保し、灌水施設を設置する。 有機物を増施し、土中の保水力を高める。 マルチ栽培をする。 深耕し根を深く伸ばす。 早作りにして8月上旬までに収穫を完了する。 	<ol style="list-style-type: none"> 降雪前にハウスを補強するとともに、降雪中は除雪や融雪に努める。 ほ場周囲や畝間に前作麦(ライ麦)を作付けて空気の移動を低減し、気温を高める。 被覆栽培をする。
(9) 茶	<ol style="list-style-type: none"> 防風林、防風垣または防風ネットを設置する。 幼木は支柱を立て結束する。 2~3年生樹は徒長枝を剪定する。 強風により葉の損傷を受けた茶園では病害防除を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 傾斜地茶園は等高線状に植栽する。 排水不良地での作付を避ける。 	<ol style="list-style-type: none"> 敷草と有機物の投入に努める。 水源の確保とかん水施設を設置する。 深刈を避ける。 幼木は根が少ないため、優先的にかん水する。 	<ol style="list-style-type: none"> 防風林、防風垣または防風ネットを設置する。 幼木園は土寄せを行う。 幼木は支柱を立て結束する。
(10) 家 畜	<ol style="list-style-type: none"> 畜舎、堆肥舎の補強を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 畜舎の内外が不潔になりやすいので、畜舎内に雨水、汚水が入らないように畜舎周囲の排水に心掛け、汚れた敷わらは交換し、牛床がいつも乾燥するようにする。 土砂の混入した飼料の給与は行わない。 	<ol style="list-style-type: none"> ひさし、すだれ、日陰樹を設置し、輻射熱の防止に努める。 窓の開放、換気扇の増設等により舎内の通風・換気に努める。 良質な飼料の給与を行い、熱中症などの疾病防止に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> 豪雪地帯では、畜舎を補強しておく。 子畜は寒さに弱く呼吸器疾患等を起こしやすいので、隙間風を防ぐ、乾いた敷料を厚めに敷く、ヒーターの設置、ジャケットの着用等防寒措置を講ずる。 舎内の清掃に努めるとともに敷料を取り替え、床の保温に努める。 換気を心掛ける。 良質な飼料を十分給与するよう心掛ける。